

地図と測量のコンテンツにふれてみよう！
「地理院地図を使ってみよう」編 第4回 ～土地の成り立ちから災害リスクを知ろう～



ケンタ君

はかせ さいきん
博士、最近は大雨による浸水被害が多いよね。
ぼく まわ
僕たちの通っている学校の周りでも起きるのかなあ？

そんな時には地理院地図じゃ。土地の成り立ちや、その地形で
発生する災害リスクを学ぶことができるんじやよ。



マップ博士



それって、どういうこと？



地理院地図では、その地形を形態、成り立ち、性質などによって区分した
地形分類を見ることができるんじや。



たとえば、かつて河川の流路だった「旧河道」による地形では、河川の氾濫による
浸水が長期間になりやすいリスクや、液状化のリスクがあるんじや。



どのようにその土地ができたかを
知れば、その地形の自然災害リスク
もわかってしまうんだね！



その通りじゃ！詳しくは以下の
ページで説明しているぞ。

- ・広報誌＜ことばのミニ辞典～第11回「地形分類」～
- ・地図・空中写真・地理調査＞主題図（地理調査）
＞ベクトルタイル「地形分類」

旧河道

出典等

土地の成り立ち かつて河川の流路だった場所で、
周囲よりもわずかに低い土地。流路の移動によって
河川から切り離されて、その後には砂や泥などで埋め
られてできる。

この地形の自然災害リスク 河川の氾濫によって
周囲よりも長期間浸水し、水はけが悪い。地盤が軟
弱で、地震の際は揺れが大きくなりやすい。液状化
のリスクが大きい。

上記は一般的な自然災害リスクであり、個別の場所のリスクを示し
ているものではありません。

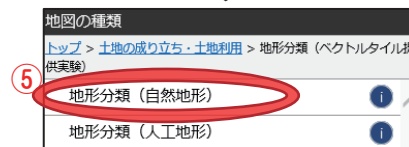
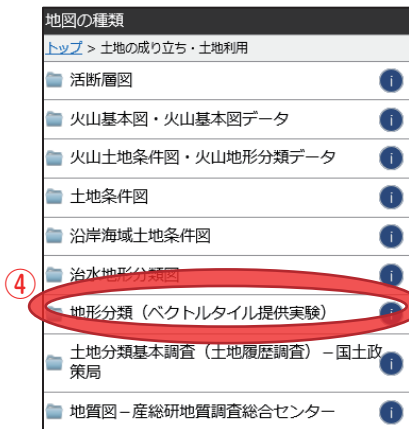


それでは、実際に地理院地図を使っ
てみよう。
今回は例として、国土地理院周辺の
「自然地形分類」を見てみようかの。



- ① 調べたい場所を検索
- ② 画面左上のアイコン[地図]をクリック





- ③[土地の成り立ち・土地利用]
④[地形分類(ベクトルタイル提供実験)]
⑤[地形分類(自然地形)]
と選択すると…



カラフルな地図が出てきたよ！
国土地理院の北東には氾濫平野(薄緑色の地域)があるんだ！



普段は見えない土地の状態が見えてきたじゃろ？
地域のことを知って防災に生かすことは、本当に大事なことなんじゃ。



「人工地形」を選択すれば、埋立地なども調べるができるんだね！
さっそく、僕の通っている学校を調べてみるね！



今回の内容は動画でも紹介しているからぜひ見て欲しいのう。

• [地理院地図ヘルプ>使い方動画一覧](#)
> [土地から災害リスクを知る](#)

